



Title	ピウスツキ採集のウイльта語民話テキスト「ネズミの母親とカエルの母親」
Author(s)	津曲, 敏郎
Citation	北方言語研究, 4, 213-231
Issue Date	2014
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/55131">http://hdl.handle.net/2115/55131</a>
Type	bulletin (other)
File Information	15津曲 資料・ノート.pdf



[Instructions for use](#)

[資料・研究ノート]

ピウスツキ採集のウイльта語民話テキスト  
「ネズミの母親とカエルの母親」

津 曲 敏 郎  
(北海道大学)

## 1. はじめに

本稿はポーランドの民族学者ブロニスワフ・ピウスツキ (Bronislaw Pilsudski 1866-1918) が 20 世紀初頭にサハリンで採集したウイльта語資料の中から民話テキストをとりあげ、その全文を音韻表記で復元し、文法分析と和訳を加えたものである。ピウスツキによるツングース諸語資料の概要紹介、および本テキストに関する内容面・言語面での特徴についての考察として、津曲 (2011、その改訂英語版 Tsumagari 2014 to appear) がある。またすでに、Ikegami (1985:170-171)、池上 (1987:278-279) にもこの民話テキストの簡単な紹介があり、自身がピウスツキの約半世紀後に別の話者 (ウイльта語南方言) から採集した話 (池上 2002:87-92) と大筋において一致することが指摘されている。ただし池上自身、ピウスツキ版テキストの復元は示していない。ちなみにピウスツキ自身によるテキスト冒頭の採集地等の記載 (Majewicz 2011:582) から、本テキストもウイльта語南方言であるとみてよい。

いっぽう、ピウスツキのツングース語資料は近年 Majewicz (2011) によって、その全体がピウスツキ著作集の一冊としてまとめられた。そこではこの民話テキストについて、ピウスツキ原稿の活字化<sup>1</sup>とともに、ウイльта語テキストのロシア字表記による再構成 (Majewicz 2011:571 の記述によれば L. V. Ozolinja が担当)、内容のロシア語訳と英訳が示されている (Majewicz 2011: 582-603)。こうした点でピウスツキ資料の参照に多大の便宜が与えられたことはもちろん喜ばしいことだが、そのテキスト復元はピウスツキの原表記を十分に踏まえたものではなく、翻訳もウイльта語原文の分析を経たものとは必ずしも言えない。

今日ウイльта語はわずかな高齢の母語話者を残すのみの状況であり、できる限りあらたな資料の蓄積を急ぐとともに、過去の採集資料を発掘し、復元と再評価を進めることが、こうした危機言語の研究にとってきわめて重要な課題である。本稿はそうした試みの一つである。

## 2. 物語のあらすじと池上版との比較<sup>2</sup>

ピウスツキは本テキストの標題に *Sahuri* (saxuri ウイльта語の口頭文芸ジャンルで「おとぎ話」と記しているが、池上版の語り手はこの話をサフリとは見ていない。しかし動物が

<sup>1</sup> ピウスツキはウイльта語テキスト資料をポーランド語版 (ローマ字表記ウイльта語とポーランド語逐語訳) とロシア語版 (ロシア字表記とロシア語逐語訳) の両方の形で残している。上掲書の活字化はポーランド語版に基づいており、ポーランド語逐語訳に英訳を付記している。ロシア語版テキストについては Majewicz (1985) があり、本稿では必要に応じて参照した。

<sup>2</sup> 本節の記述は津曲 (2011:100-101) と重複する部分がある。

擬人的に登場する点で、「おとぎ話」と言ってよい内容である。ピウスツキ版のあらすじを、池上（1987）が次のようにまとめている。

ねずみの母親とかえるの母親が、一緒に舟をこいで川上へ木になる漿果をとりに行った。かえるの母親は、木にのぼることができず、木の実をとれなかった。ねずみの母親は、たくさんの木の実をとったが、かえるの母親へひとつもやらなかった。ねずみのこどもたちは喜んだが、かえるのこどもたちは悲しがった。うちへ帰ってから、かえるの母親は大じかを取り、たくさんの肉をえた。ねずみの母親は夜その肉をぬすみに行ったが、ぬすみに失敗し、かえるの母親にひどくぶたれた。ねずみの母親は、けがをして、からすのシャマンとわたりがらすのシャマンと小鳥のシャマンを呼びにやった。けれども、小鳥のシャマンはかの女の本当のことを暴露してかの女に追いかえされた。（池上 1987:278）

以下に、池上採集のテキストと比較しながら、両者の内容・表現等の相違点と一致点を一覧表にして示す。特徴的な擬音語が、口承において保たれていることがわかる。

ピウスツキ	池上
1904年サチガリ（ポロナイ川河口付近）で Kisungin（男性 <sup>3</sup> 、26歳）から採集	1956年佐藤チヨ（Napka 1910?-1985）氏から採集
saxuri とジャンルを明記	語り手は saxuri とは見ない
ともにサフリの形式的特徴である冒頭の語句 daa xazilaccee を欠く	
舟をこぐ擬音 tomboo bok bok の一致	
ネズミはカエルの腹をつかんで実を取り戻す	舟の座板でカエルの喉を締め付け、腹を踏む
カエルの子どもは悔しさで目がつぶれる	（該当する記述なし）
（該当する記述なし）	カエルがオオシカの肉を手に入れたことを知ったネズミの母親は自分の子どもに木の実を持たせてカエルに届けさせるが、カエルの母親から追い返される
背中を打たれて苦しむネズミのうめき声 xærii の一致	
カラスのシャマン、ワタリガラスのシャマンとも怪我の理由を言う前に追い返される	カラスのシャマン、ワタリガラスのシャマンとも怪我の理由を暴露して追い返される
小鳥（næciga, コガラ cinda と）のシャマンが本当の理由を言い当てて追い返される	小鳥のシャマンは本当のことを言わずに、ネズミの歓心をかけて報酬を得る
カラス、ワタリガラス、小鳥の各シャマンの鳴き声（gaak/karr/ciin ciin ciruwaldas）の一致	
シャマンがみな帰ってからネズミは全快した	（該当する記述なし）

表1：ピウスツキ採集版と池上採集版の比較

<sup>3</sup> ピウスツキが別途採集したウイльта語固有名詞語彙の中で男性名であることが示されている（Majewicz 2011:551）。

### 3. 凡例

以下で分析の対象とするのは、ポーランド語版によるテキストであり、原ノートで12ページ、行数にして98行<sup>4</sup>にわたる完結した一話である。以下ではおおむね一文と見なせるものを一行として、あらたに行区分をほどこした（本稿での行番号の後に/で区切って、原ノートの対応する行を斜字体で示した）。結果的には全体でちょうど98行となったが、文の区切りはピウスツキのものとはかなり異なる（ピウスツキは、彼が文頭と見なす個所を大文字で示している）。また、ピウスツキの原表記には単語の区切り方にもしばしば不適切なところがある。さらに、彼が会話文と見なして“ ”で示す部分にも、地の文と見なすべき部分がある。こうした点の異同については、各行の1行目に斜字体で示したピウスツキ自身の原文表記<sup>5</sup>と、2行目の復元した音韻表記（ボールド体）とで比較されたい。

音韻表記は池上（1997など）の方式にしたがったが、池上のč, jをそれぞれc, zにあらためた。語の認定にあたっては池上（1997）および潤瀉（1981）を参照したが、特別の場合以外は逐一言及していない。表記や分析の不明な個所は?で示した。

音韻表記した語形には可能な限り形態素の区切りを付し、3行目にそれに対応するグロスを示した。おおむね、語形変化にかかわる語尾は逐一分析したが、語彙化しているものや派生にかかわる接尾辞は分析していないものもある。ウイльта語に特徴的な融合した形式については、グロスにおいてハイフンの代わりに+で示した。略号については下記の一覧を参照されたい。

4行目に、おおむねウイльта語の語順に沿った和訳を付した。必要に応じて、その次の行に注記を[ ]に入れて示す。

#### 略号一覧

- 形態素境界/+ 融合/= 倚辞境界/1 一人称/2 二人称/3 三人称/ACC 対格語尾/AL 譲渡可能所有接尾辞/CAUS 使役（または受身）派生接辞/CNG 否定動詞に後続する形動詞語尾（co-negative）/CVB 副動詞語尾/DAT 与格語尾/DIR 方向格語尾/DST 目的移動動詞派生接尾辞（～しに行く）/EMP 強調倚辞/FNT 定動詞語尾/FUT 未来・形動詞語尾/INS 道具格語尾/ITJ 間投詞/ITR 反復派生接辞/LOC 場所格語尾/MDL 法助詞/ONM 擬音・擬態語/P 複数/PRS 現在・形動詞語尾/PST 過去・形動詞語尾/REF 再帰所有接尾辞/REG 回帰派生接尾辞/S 単数/Q 疑問倚辞/TOP 主題倚辞/VOC 呼びかけ接尾辞

<sup>4</sup> Majewicz (2011:582-592) の行区分では最後が97行となっているが、行番号の記載に誤りがある。11, 12行目がともに「11」となって「12」が抜けており、21, 22行目がともに「21」となって22行目以下の番号が一つ前にずれている。

<sup>5</sup> Majewicz (2011:582-592) で活字化されたものにしたがったが、全体をピウスツキ自身の原稿コピーで確認し、いくつかの誤りを正した。

#### 4. テキスト

1/1

*Acíha yníni, udalá yníni balziáci,*

**aciga əni-ni, udala əni-ni balzi-xa-ci.**

rat mother-3S, frog mother-3S live-PST-3P

ネズミの母親とカエルの母親が暮らしていた。

2/1-3

*ci balzimžē sinykty sinylyhýci, ugdázi géda uhé solójganá\*.*

**cii balzi-mzee sinəktə sinələ-xə-ci, ugda-zi geeda unee soloi ganaa(?).**

long live-CVB berry+ACC gather-PST-3P, boat-INS one river+ACC upstream ?

ずっと暮らしていて、木の実を採りに行った、舟で一つの川を上流へ (?)。

[\*gana の分析・意味不明]

3/3-4

*Udalá yníni géolixán, aciá yníni éjakko taháni.*

**udala əni-ni geuli-xa-ni, aciga əni-ni eekkuta-xa-ni.**

frog mother-3S row-PST-3S, rat mother-3S hold.radder-PST-3S

カエルの母親が漕いだ、ネズミの母親がかじをとった。

4/4-5

*Udalá yníni géolixán tombó-bok-bók*

**udala əni-ni geuli-xa-ni, tomboo bok bok,**

frog mother-3S row-PST-3S, ONM(rowing)

カエルの母親が漕いだ、トンボーボクボク、

5/5-6

*ǰalcihināre ciké sizíni yty ziliptáni" tombó bok-bók géulixańé.*

**“xalcinaam-bari tixxee siizin\* ətu-zi-li-pu\*\* taani” tomboo bok bok geuli-xa-nee.**

boat-REF.P so.much fully gather-PRS?-FUT-1P MDL ONM(rowing) row-PST-3S+EMP

「自分たちの舟いっぱい余るほどおれたちは採るだろう」トンボーボクボクと漕いだ。

[\*xalcinaambari tixxee siizin については池上 (2002:88) 参照。 \*\* -zi-li については山田 (2010:92) の注7 参照]

6/6-7

*ǰeulími\* solohóci.*

**geuli-mi solo-xo-ci.**

row-CVB go.upstream-PST-3P

漕いで、彼らはのぼった。

[\*複数形-mari ではなく、-mi となっている]

7/7-8

*Solomžé géda póki sinykty baram báni ityhýc.*

**solo-mzee geeda poo-kki sinəktə baram-ba-ni itə-xə-ci.**

go.upstream-CVB one place-PRL berry many-ACC-3S see-PST-3S

漕いで、一つの場所に木の実をたくさん見つけた。

8/8

*Ityhyćēri hákcici.*

**itə-xəcceeri xaak-ci-ci.**

see-CVB.P moored.boat-PST-3S

見つけて、彼らは舟をつけた。

9/8-9

*Aciá-yníni-núci\* mǒkki muktahán, sinyktý tukbundémi.*

**aciga əni-ni=ηuci moo-kki mukta-xa-ni, sinəktəə tugbundə-mi.**

rat mother-3S=TOP tree-PRL climb.up-PST-3S, berry take-CVB

ネズミの母親は木にのぼった、木の実を採りに。

[\*以下頻出する -núci の主題標識としての解釈 (=ηuci<ηu-ci [-AL-3P]) については津曲 (2011:102-107) 参照]

10/9-11

*Udalá ynini-núci dátan dúni uisej hené\* kargaháni. Aciá ynini túgbuli sivéni túcimi.*

**udala əni-ni=ηuci daatan-du-ni uisəi xəməə(?) karga-xa-ni, aciga əni-ni tugbuli-si-wə-ni tuci-mi.**

frog mother-3S=TOP root-DAT-3S upward quietly watch-PST-3S, rat mother-3S

gather-PRS-ACC-3S keep.watch-CVB

カエルの母親は木の根元で上をじっと見ていた、ネズミの母親が採るのを見張って。

[\*hené は xəməə 「黙って」 か]

11/11-12

*Tucimžé géde sinykty kŷ túheni.*

**tuci-mzee geeda sinəktə=kəə tuu-xə-ni.**

keep.watch-CVB one berry=only drop-PST-3S

見張っていると一つの実だけ落ちた。

12/12-13

*Ćava týptym numbehéni, udalá ynini.*

**ca-wa təptəm nuŋbə-xə-ni, udala əni-ni.**

that-ACC whole swallow-PST-3S, frog mother-3S

それをゴクリと飲み込んだ、カエルの母親は。

13/13-14

*Aciá ynini tuduhéni\* mokmoktaháci tuduhéni.*

**aciga əni-ni tuudu-xə-ni, mokmokta-gacci\*\* tuu-du-xə-ni.**

rat mother-3S climb.down-PST-3S, stoop(?)<CVB climb.down-REG-PST-3S

ネズミの母親は降りて来た、身をくねらせて(?)降りて来た。

[\*Majewicz (2011:583) で *tudehéni* とあるのは誤り。 \*\**mokmokta-* については、池上 (1997:123) *mokcom* 「前かがみになって」、*mokcuu* 「曲がった (木、人のからだなど)」 参照]

14/14-16

*Tuduhéc udalá ynimbéni sinektýnni bildadami váhan bokombóni pasúmiháni,*

**tuu-du-gacci udala ənim-bə-ni sinəktəə-ni bildada-mi waa-xan(?)**

**bokkom-bo-ni pasumi-xa-ni.**

climb.down-REG-CVB frog mother-ACC-3S berry+ACC-3S grudge-CVB kill-?

stomach-ACC-3S grasp-PST-3S

降りて来て、カエルの母親を、実を惜しんで、殺そうと (?) 腹をつかんだ。

15/16

*ćoć sinyktýni dapáduxáni.*

**coocci sinəktəə-ni dapa-du-xa-ni.**

thus berry+ACC-3S get.back-REG-PST-3S

そうして実を取り返した。

16/17

*Ćoć aciá ynini kurkembí ćák sinyktý ytuhéni.*

**coocci aciga əni-ni kurkəm-bi cak sinəktəə ətu-xə-ni.**

thus rat mother-3S basket-REF fully berry+ACC gather-PST-3S

そうしてネズミの母親は自分の容れ物にいっぱい木の実を採った。

17/18

*Udala yhéni géda da sinyktý ycíni dapá.*

**udala əni-ni geeda=dda sinəktəə əc-ci-ni dappaa.**

frog mother-3S one=even berry+ACC do.not-PST-3S get+CNG

カエルの母親は一つも木の実を採らなかった。

18/18-19

*Ugdata ker ūduaci.*

**ugda-takkeeri uu-du-xa-ci.**

boat-DIR.REF get.on-REG-PST-3S

自分たちの舟にまた乗った。

19/19-20

*Uduaceri göcǐ-göcǐ udalá yhéni géoliháni.*

**uu-du-gacceeri goci goci udala əni-ni geuli-xa-ni.**

get.on-REG-CVB again again frog mother-3S row-PST-3S

また乗ってから再びカエルの母親は漕いだ。

20/20

*"halcihinári ciké sizíni ýtudutepú máni\**

**“xalcinaam-bari tixxee siizin ətu-du-xə-pu taani”.**

boat-REF.P so.nuch fully gather-REG-PST-1P MDL

「自分たちの舟いっぱい余るほどおれたちは採って来たぞ」。

[\*ýtu dutepú máni は ətuduxəpu taani か?]

21/21-22

*tombō bok-bók, tombō bok-bók, múšpy-kéri hagduáci.***tomboo bok bok, tomboo bok bok, muspə-kkeeri xaag-du-xa-ci.**

ONM(rowing), ONM(rowing), front.bank-PRL.REF.P moored.boat-REG-PST-3P

トンボーボクボク、トンボーボクボクと自分たちの家の前に舟をつけた。

22/22-23

*Udalá ynini putténi agdámi\* yuxéni heé-heé zildacini.***udala əni-ni puttə-ni agda-mi əu-xə-ni, xee xee zildac-ci-ni.**

frog mother-3S child-3S delight-CVB go.down-PST-3S, ITJ shout-PST-3S

カエルの母親の子どもは喜んで(川辺へ)降りて来た、ケロケロと声をあげた。

[\*Majewicz (2011:584) で *agami* とあるのは誤り]

23/23-24

*Udalá putténi: "ynimbi isuhándun!"\* agdámi zildacini.***udala puttə-ni, ənim-bi isu-xan-du-ni, agda-mi zildac-ci-ni.**

frog child-3S mother-REF return-PST-DAT-3S, delight-CVB shout-PST-3S

カエルの子どもは自分の母親が帰って来たことに喜んで叫んだ。

[\*ピウスツキ原文で“ ”に入れて会話文とみるのは誤り。以下の 25 行目も同様 (Majewicz 2011:601-602 の英訳もこれを踏襲) ]

24/24

*Acía yheni putténi agdámi euxéni***aciga əni-ni puttə-ni agda-mi əu-xə-ni.**

rat mother-3S child-3S delight-CVB go.down-PST-3S

ネズミの子どもは喜んで降りて来た。

25/26

*cék-cék zildami agdami euxéni: "ynimbi esuhánduni!" acihá putténi:***ceek ceek zilda-mi agda-mi əu-xə-ni, ənim-bi isu-xan-du-ni, aciga puttə-ni.**

ITJ shout-CVB delight-CVB go.down-PST-3S, mother-REF return-PST-DAT-3S, rat child-3S

チューチュー鳴きながら喜んで降りて来た、自分の母親が帰って来たことに、ネズミの子どもは。

26/26-28

*"\*aciha-ynini ytuheeni mangá bará kúrkym čak dalupuháni aciá ynini;***aciga əni-ni ətu-xə-ni, maŋga bara kurkəm(-bə) cak dalupu-xa-ni, aciga əni-ni.**

rat mother-3S gather-PST-3S, very much basket(-ACC) fully make.full-PST-3S rat mother-3S

ネズミの母親は採った、とてもたくさんカゴをいっぱいにした、ネズミの母親は。

[\*原文にある引用開始符を Majewicz (2011:585) は落としている]

27/28

*udalá ynini géddadda ycin gáddo***udala əni-ni geeda=dda əc-ci-ni gaddoo.**

frog mother-3S one=even do.not-PST-3S bring+CNG



カエルの母親は一つも持って来なかった。

28/29-30

*purilni isál cipál tókto donó cici xunúkuzi xunimýri, "\*\**

**puril-ni isal cipal toktodonoc-ci-ci xunikku-zi xuni-məri\*\*.**

children-3S eye all get.blind-PST-3P jealousy-INS suffer-CVB.P

子どもの目は全部つぶれた、悔しさで病んで。

[\*ピウスツキ原文では 26 行目の頭からこの行末までを会話文とみているが誤り (Majewicz 2011:602 もこれを踏襲)。\*\*xunikku, xuni- に関する民間信仰については津曲 (2013:107-110) で指摘した]

29/30-31

*cipál kapaduváci mýny-mýny duktá kéri;*

**cipal kaapadu-wa-ci mæñə mæñə duk-takkeeri.**

all go.up-REG-PST-3P each each house-DIR.REF.P

みなあがって戻った、それぞれの家に。

30/31-32

*aciá ynini dy myn duktáki kapadugá;*

**aciga əni-ni=ddə mæñə duk-takki kaapa-du-xa(-ni).**

rat mother-3S=also her.own house-DIR.REF go.up-PST(-3S)

ネズミの母親も自分の家に戻った。

31/32-33

*udalá ynini dy myn duktáki kapaduhá.*

**udala əni-ni=ddə mæñə duk-takki kaapadu-xa(-ni).**

frog mother-3S=also her.own house-DIR.REF go.up-PST(-3S)

カエルの母親も自分の家に戻った。

32/33

*Ysilé sexseduxéni,*

**əsilə səksədu-xə-ni.**

now become.evening-PST-3S

今や晩になった。

33/33-35

*sun ylý tuzidúni Udalá ynini-núci gisurúki dapaduáci miktémby cihálin daxaní.*

**suun ələə tuuzzi-du-ni, udala əni-ni=ɲuci gisiruuk-ki dapa-du-gacci miiktəm-bə**

**cigali-nda-xa-ni.**

sun soon fall+PRS-DAT-3S, frog mather-3S=TOP knife-REF hold-REG-CVB rowan.tree-ACC cut-DST-PST-3S

日がもう少しで落ちるとき、カエルの母親はナイフを手にとってナナカマドを切りに行った。

34/35-36

*Cihálin daháci éle búju dáje ityxéni,*

**cixali-nda-gacci ələ bejə daajjee(-ni) itə-xə-ni.**

cut-DST-CVB just beast big+ACC(-3S) see-PST-3S

切りに行つて、ちょうど獣の大きいのを見た。

35/36-37

*tarinúni to\* nóani báruni aŋmábe turáci, péxani,*

**tari=ŋuni toowo\*\*, nooni baaru-ni aŋma-bi tura-gacci pee-xa-ni.**

that=TOP elk, 3S direction-3S mouth-REF open-CVB breathe-PST-3S

それはオオシカで、彼女に向つて口をあけて、舌を出して息をした。

[Majewicz (2011:586) で ot とあるのは原表記 *to* からの誤記。\*\*toowo の表記は池上 (1997:209) による]

36/37-38

*péridúni udalá ynini-núci úccini:*

**pee-ri-du-ni udala əni-ni=ŋuci uc-ci-ni.**

breathe-PRS-DAT-3S frog mother-3S=TOP say-PST-3S

舌を出して息をしているときにカエルの母親は言った。

37/38

*"tokó mimbé numbó," taránaci úccini.*

**"toowo mimbee nuŋbəu." taraŋaci uc-ci-ni.**

elk+VOC 1S.ACC swallow+IMP, thus say-PST-3S

「オオシカよ、おれを飲み込め」そう言った。

38/38-40

*Udalá ynini taránaci unzidúni. Numbýnni to-muci numbýnni.*

**udala əni-ni taraŋaci un-zi-du-ni, nuŋbə-xə-ni toowo=ŋuci nuŋbə-xə-ni.**

frog mother-3S thus say-PRS-DAT-3S, swallow-PST-3S, elk=TOP swallow-PST-3S

カエルの母親がそう言うと、飲み込んだ、オオシカは飲み込んだ。

39/40

*To bókóni dóto jéni ihyni;*

**toowo bokko-ni doo-toi-ni ii-xə-ni.**

elk stomach-3S inside-DIR-3S enter-PST-3S

オオシカの腹の中に入った。

40/40-42

*ihýci éa gisurúci bokombóni jári-jar puktecixéni; háрпи ciháni.*

**ii-xəcci caa gisuruu-zi bokkom-bo-ni jaar jaar puktə-ci-xə-ni, xarpi-ci-xə-ni\*.**

enter-CVB that knife-INS stomach-ACC-3S at.random tear-ITR-PST-3S, cut-ITR-PST-3S

入つて、そのナイフで腹をあちこち切り裂いた。

[\*puktə-, xarpi- とともに潤濁 (1981) 参照]

41/42

*To múni pykcy tuhéni,*

**toowo=ηuni pəkcə\* tuu-xə-ni.**

elk=TOP down fall-PST-3S

オオシカはバツタリ倒れた。

[\*pəkcə 潤濁 (1981) 参照]

42/42-43

*bokok-kéni nyduhéni.*

**bokko-kkee-ni nə-du-xə-ni.**

stomach-PRL-3S come.out-REG-PST-3S

その腹から彼女は出て来た。

43/43

*Udalá yníni-nuci duktáki nynuhéni.*

**udala əni-ni=ηuci duk-takki ηənu-xə-ni.**

frog mother-3S=TOP house-DIR.REF go.back-PST-3S

カエルの母親は家に帰った。

44/44

*Nynuhéé purilbl gadámi ísuháni, to mutákki.*

**ηənu-gəcci puril-bi gadu-mi isu-xa-ni, toowo-ηu-takki.**

come.back-CVB children-REF bring-CVB return-PST-3S, elk-ALN-DIR.REF

帰ってから子どもたちを連れて戻って来た、自分のオオシカのところへ。

45/44-45

*Čoć tylđyhéni,*

**coocci təldə-xə-ni.**

then dissect-PST-3S

そして腹を割いた。

46/45-46

*purilni-núci duricici dukta-kéri maludú suk súmzi urrucici,*

**puril-ni=ηuci dœri-ci-ci duk-takkeeri malu-du suk sum-zi urruu-ci-ci.**

children-3S=TOP bring-PST-3P house-DIR.REF.P fireside-DAT neatly-INS put-PST-3P

子どもたちは運んだ、家に、炉の奥にきちんとまとめて置いた。

47/46-47

*cipál duricici, dukta-kéri duryméri xozíaci.*

**cipal dœri-ci-ci duk-takkeeri, dœri-məri xozí-xa-ci.**

all bring-PST-3P house-DIR.REF.P, bring-CVB.P finish-PST-3P

全部運んだ、家に、運び終わった。

48/47-48

*Xozíacéri čipál iduéci akpám butdóri.*

**xozí-gacceeri cipal ii-du-xə-ci, akpam-buddoori.**

finish-CVB.P all enter-REG-PST-3P, sleep-CVB

終わってから皆入った、寝るために。

49/48-49

*Udalá yníni núci purilbi cipál akpánbóccini.*

**udala əni-ni=ɲuci puril-bi cipal akpam-booc-ci-ni.**

frog mother-3S=TOP children-REF all sleep-CAUS-PST-3S

カエルの母親は子どもたちを全部寝かせた。

50/49-50

*Akpanbokác yzigdý tucihéni, acihá ynimbéni tucihéni. Udalá yníni*

**akpam-book-kacci əsigdəə tuci-xə-ni, aciga ənim-bə-ni tuci-xə-ni, udala əni-ni.**

sleep-CAUS-CVB this.time watch-PST-3S, rat mother-ACC-3S watch-PST-3S, frog mother-3S

寝せてから今度は見張った、ネズミの母親を見張った、カエルの母親は。

[この行から次行にかけて、ピウスツキ原文では文の区切り方が誤っている]

51/50-51

*dolbon taldánduni aciá yníni núci jambaxáni doromómi\*,*

**dolboni taldaan-du-ni aciga əni-ni=ɲuci jaanba-xa-ni doromo-mi.**

night midst-DAT-3S rat mother-3S=TOP sneak-PST-3S steal-CVB

夜中にネズミの母親が忍び寄った、盗みに。

[\*Majewicz (2011:588) で *doromómi* とあるのは誤り]

52/51-53

*udalá yníni dún-ni báruni jambaxáni, uték-kéni nandý́ ɪhyni.*

**udala əni-ni duɲ-ni baaru-ni jaanba-xa-ni, utə-kkee-ni nanɟdəə\* ii-xə-ni.**

frog mother-3S house-3S direction-3S sneak-PST-3S, door-PRL-3S quietly enter-PST-3S

カエルの母親の家のほうに忍び寄った、戸口からそうっと入った。

[\*nanɟdəə は潤濁 (1981:140) に nanɟdaa, nanɟdəə とあるが、強調のために本来の a が語末で əə とになったものか : cf. laxa>laxəə 「近く (laxa より近い)」 池上 1997:111 参照]

53/53

*Ulingázi ivócini*

**ulinga-zi ii-wooc-ci-ni.**

well-INS enter-CAUS-PST-3S

(カエルの母親は) 十分 (奥まで) 入らせた。

54/53-54

*malú báruni mituxéni haulé maló aptuháni,*

**malu baaru-ni mitu-xə-ni xaulee malloo aaptu-xa-ni.**

fireside direction-3S creep-PST-3S finally fireside+ACC reach-PST-3S

(ネズミの母親は) 炉の奥のほうに這って行った、とうとう炉の奥にたどりついた。

55/54-55

*zin ulingaktáni dapáci, nyduxéni*

**ziɲ ulingaktaa-ni dapa-gacci nəə-du-xə-ni**

very good.thing+ACC-3S hold-CVB come.out-REG-PST-3S

大変いいものをつかんで戻って出た。

56/55-57

*nizidúni silýmy olziháci sihyréni xyundéni, ulingaʒi iteciéci pácilaxáni.*

**nəzzi-du-ni sələmə olziga-zi səərree-ni xəundəi, ulinga-zi itəci-gəcci paacila-xa-ni.**

come.out+REG+PRS-DAT-3S iron hook-INS backbone+ACC-3S sideways well-INS see-CVB  
beat-PST-3S

出るときに鉄の炉鉤で背骨を横に、よく見てからたたいた。

57/57

*"Čěk" ziltáciní,*

**“ceek” jildac-ci-ni.**

ITJ squeak-PST-3S

「チュー」と鳴いた。

58/57-58

*páčil léduńi, ʒe dakciháńi ojolóni.*

**paacillee-du-ni, zee dakci-xa-ni ojo-lo-ni.**

beat+PRS-DAT-3S, again repeat-PST-3S surface-LOC-3S

たたくときに、また重ね（て打つ）た、上から。

59/58-59

*Ysílekký sulá nýduxeni, gośú sínnginʒin zibómi,*

**əsi=ləkkə sulaa nəə-du-xə-ni, gossuusiŋginzini\* zobo-mi.**

now=EMP barely escape-REG-PST-3S, suffering pain-CVB

今やようやく逃げ出した、痛みに苦しみながら。

[\*gossuusiŋginzini は池上（1997:73）にある]

60/59

*dúgbi aptuduxáni*

**dug-bi aaptu-du-xa-ni**

house-REF reach-REG-PST-3S

家に戻った。

61/60-61

*śulá aptuduáci puríl-tékki uccini, ninduńé úccini:*

**sulaa aaptu-du-gacci puril-təkki uc-ci-ni, nindu-mee uc-ci-ni.**

barely reach-REG-CVB children-DIR.REF say-PST-3S, groan-CVB+EMP say-PST-3S

ようやく戻ってから子どもたちに言った、うめきながら言った。

62/61

*ŷńé, úccini, yńý hýrý, úccini,*

**“ənee” uc-ci-ni, “əńə, xəərii” uc-ci-ni.**

aching say-PST-3S, aching ITJ(groaning) say-PST-3S

「痛い」と言った、「痛い、ハーリー」と言った、

63/62-63

*yný budemí, úccini, samámba samalá usú. Hýri".*

**“əṇə bu-də-mi-gə” uc-ci-ni, “samam-ba samallau-su, xəərii.”**

aching die-FNT-1S-FNT say-PST-3S, shaman-ACC call.shaman+IMP-2P, ITJ

「痛い、死にそうだ」と言った、「シャマンを呼んで来い、ハーリー」。

64/63-64

*Purílni-núci samaláha haćé, gaj samambani gajduáci,*

**puril-ni=ɲuci\* samala-gaccee(ri), gaaji samam-ba-ni gadu-xa-ci.**

children-3S=TOP call.shaman-CVB.P, crow shaman-ACC-3S bring-PST-3P

子どもたちはシャマンを呼びに行き、カラスのシャマンを連れて来た。

[\*puril-ni が puril-li のように同化していないことに注意]

65/64

*Gāj samáni-núci jájahan jeroxóni.*

**gaaji sama-ni=ɲuci jaaja-xa-ni, eeroo-xo-ni.**

crow shaman-3S=TOP sing-PST-3S, divine-PST-3S

カラスのシャマンは歌った、占った。

66/65

*Jerōmi úccini: "gāk, uccini,*

**eeroo-mi uc-ci-ni, “gaak”, uc-ci-ni.**

divine-CVB say-PST-3S, ITJ, say-PST-3S

占って言った、「ガーク」と言った。

67/65-66

*vaṇavaháni ynú-ynú ynujexéni*

**“waaṇaa\* waa-xa-ni, ənuu ənuu ənulu-xə-ni\*\*,**

wound get.wound-PST-3S, disease disease get.disease-PST-3S

「けが、けがをした、病気、病気、病気になった、

[\*waaṇaa は池上採集のテキスト（池上 2002:90, 92）にも見え、「意義不明」とされているが、この行から次々行にかけての名詞・動詞同根語の反復表現から見て、「けが」の意味だろう。

\*\*ənuluxəni は池上（1997:59）の語形にしたがった]

68/66

*sopija sopijaxáni" umí jajaxáni*

**sopija\* sopija-xa-ni”, u-mi jaaja-xa-ni,**

swelling get.swelling-PST-3S, say-CVB sing-PST-3S

腫れもの、腫れものができた」と歌った、

[\*sopija と次行の xoksiga については潤濁（1981:192, 85）を参照]

69/67

*"hoxsijá hoxsijaxáni", umí jajaxáni.*

**“xoksiga xoksiga-xa-ni”, u-mi jaaja-xa-ni.**

caries get.caries-PST-3S, say-CVB sing-PST-3S

「カリエス、カリエス病になった」と歌った。

70/67-69

*“Ylé, úccini aciá yníni núci: "mánga samá xodzionusó guželé".*

**“ələ”, uc-ci-ni aciga əni-ni=ɲuci, “maŋga sama xozoonu-soo guzzeelə”.**

enough, say-PST-3S rat mother-3S=TOP, great shaman stop+CAUS+IMP-2P+EMP please

「もういい」と言った、ネズミの母親は、「偉いシャマンを、やめさせろ、お願いだ」。

71/69-70

*Gáx-gáx-gáx, nynuxéni, čüp nynuxéni,*

**“gaak gaak gaak”, ɲənu-xə-ni, cup ɲənu-xə-ni.**

ITJ, return-PST-3S, quickly return-PST-3S

「ガーク、ガーク、ガーク」と帰った、サッと帰った。

72/70-71

*gaj-ɲuci nynuxénduni: "ynyhý šel, hýri, tuá samambáni samállausú", uccini*

**gaaji=ɲuci ɲənu-xən-du-ni, “əɲəsəəl\*, xəərii, tuwa samam-ba-ni**

**samallau-su”, uc-ci-ni.**

crow=TOP return-PST-DAT-3S, children+VOC, ITJ, raven shaman-ACC-3S

call.shaman+IMP-2P, say-PST-3S

彼らのカラスが帰ったとき、「子どもたちよ、ハーリー、ワタリガラスのシャマンを呼んで来い」と言った。

[\*əɲəsəəl については池上 (2002:92) の注記参照]

73/71-72

*purilbi giktaziháni.*

**puril-bi giktazi-xa-ni.**

children-REF send-PST-3S

子どもたちを行かせた。

74/72

*Čooćéeri tuá samambáni samalataháci.*

**coocceeri tuwa samam-ba-ni samalata-xa-ci.**

then raven shaman-ACC-3S bring.shaman-PST-3P

するとワタリガラスのシャマンを呼んで来た。

75/73

*Jajaúci, jerokáwcici,*

**jaajauc-ci-ci, eerok-kauc-ci-ci.**

sing+CAUS-PST-3P, divine-CAUS-PST-3P

歌わせた、占わせた。

76/73-74

*ciohocigdá jéroho sipciní, tarydá xajš géda poktóki uccini:*

**coocigda eeroo-sip-ci-ni\*, tari=ddaa xaisi geeda pokto-kki uc-ci-ni.**

then divine-?-PST-3S, he=also again one way-PRL.REF say-PST-3S

すると占った？ 彼もまた同じように言った。

[\*eeroo-sip-ci-ni の-sip の部分は何らかの派生接尾辞と考えられるが不明]

77/74-75

"*vaŋaváhani, karr ynu ynujehéni, karr, hoksija hoksijaxáni, karr!*"

**"waaŋa waa-xa-ni, karr, ənuu ənulu-xə-ni, karr, xoksigaxoksigaxa-ni, karr"**.

wound get-PST-3S, ITJ, disease get.disease-PST-3S, ITJ, caries get.caries-PST-3S, ITJ

「けがをした、カルル、病気になった、カルル、カリエス病になった、カルル」。

78/76

"*Ylá-ylá nynnunyśó gudželá,*

**"ələ, ələ, ŋənnəənu-səə guzzeeləə.**

enough, enough, return+CAUS+IMP-2P+EMP please

「もういい、もういい、帰らせろ、お願いだ。」

79/76-77

*mánga samambá Xajrá\* sinneuleśó jajawćesó, ylá!"*

**maŋga samam-ba xai-wa siinnəulli-səə jaajauccee-soo, ələ"**.

great shaman-ACC what-ACC worry+PRS-2P+EMP, sing+CAUS+PRS-2P+EMP, enough

偉いシャマンを何で苦しめるか、歌わせるか、もういい」。

[ロシア語版では xajba]

80/77-78

*Čúp, nynuxéni.*

**cup ŋənu-xə-ni.**

quickly return-PST-3S

サッと帰った。

81/78

*Hamaraxkéni góci-góci śesuciheni puriltékki*

**xamarakkeeni, goci goci səsuci-xə-ni puril-təkki.**

afterwards again again ask-PST-3S, children-DIR.REF

そのあとまたまた頼んだ、子どもたちに。

82/79

"*ynýlysīl, hýri, yly budemí, hýri,*

**"əŋəsəəl, xərii, ələ bu-də-mi-gə, xərii,**

children+VOC, ITJ, soon die-FNT-1S-FNT, ITJ

「子どもたちよ、ハーリー、わしはもう少しで死ぬ、ハーリー、

83/79-80

*cindý samambáni samalawsú, hýry!"*

**cində samam-ba-ni samallau-su, xərii"**.

willow.tit shaman-ACC-3S call+IMP-2P, ITJ

コガラ\*のシャマンを呼んで来い、ハーリー」。



[\*「コガラ」の訳は潤瀉（1981:28）による]

84/80-81

*Purilni núci samalācé ísuváci,*

**puril-ni=ɲuci samala-gaccee(ri) isu-xa-ci,**

children-3S=TOP call.shaman-CVB come.back-PST-3P,

子どもたちはシャマンを呼んで帰って来た、

85/81

*cindý samambáni gadumári ísuváci.*

**cində samam-ba-ni gadu-mari isu-xa-ci.**

willow.tit shaman-ACC-3S bring-CVB.P come.back-PST-3P

コガラのシャマンを連れて帰って来た。

86/82

*Ísuvaćēri jajawcici, jerokáwcici*

**isu-gacceeri jaajauc-ci-ci, eerok-kauc-ci-ci.**

come.back-CVB.P sing+CAUS-PST-3P, divine-CAUS-PST-3P

戻って来て歌わせた、占わせた。

87/82-84

*"cīn-cīn ciruhyldés" haj bahan\* umisaŋi\*\*, ciruhyldes, míni leký hánduve,*

**“ciin ciin ciruwaldəs, xai baa-xa-ni u-misaŋi, ciruwaldəs, min-i=ləkkə**

**xandu=wə\*\*\*,**

ONM, what get-PST-3S say-?, ONM, 1S-GEN=EMP endure+IMP=EMP

「チーン、チーン、チルワルダシ、何にかかったか言いましょう、チルワルダシ、私の（言うこと？）ならがまんしなさい（？）。

[\**bahan* はロシア語版では *bahan* とあり、*waa-xa-ni* 「けがをした」の意味かもしれない。\*\**umisaŋi* は分析・意味不明 (cf. *u-mu-si-wi* 「私は言いたい」)。\*\*\**xandu*-「がまんする」は潤瀉（1981:77）を参照]

88/84-85

*hájmi udalá yníni duhýcini ɲyci, hájmi binihý, ciruhyldés,*

**xaimi udala əni-ni duxic-ci-ni goci, xaimi bii-ni=gə, ciruwaldəs,**

why frog mother-3S beat-PST-3S MDL, why be+PRS-3S=Q, INT

なぜカエルの母親がたたいたんだろう、なぜなのか、チルワルダシ、

89/85-87

*udála yníni to vahandúni dolbó dorómomi nýnyhési bicí biliry\*, ciruhyldés,*

**udala əni-ni toowo waa-xan-du-ni dolbo doromo-mi ɲənə-xə-si bic-ci billəə,**

**ciruwaldəs,**

frog mother-3S elk kill-PST-DAT-3S night steal-CVB go-PST-2S be-PST MDL, INT

カエルの母親がオオシカを殺したときに夜、盗みに行ったんだろう、チルワルダシ、

[Majewicz (2011:591) *biliry* は誤り]

90/87-89

*nynyhéndusi, udalá yníni silimó olziházi sihyryési xyundeni pácilaháni bilyré***ŋənə-xən-du-si, udala əni-ni sələmə olziga-zi səərree-si xəundəi paacila-xa-ni billə.**go-PST-DAT-2S, frog mother-3S iron hook-INS backbone+ACC-2S sideways beat-PST-3S  
MDL

行ったときにカエルの母親が鉄の鉤でおまえの背骨を横にたたいたろう。

91/89-90

*ýri-gýry samá xavépani érokkéciha, cin-cin ciruheldes”.***əri gərə\* sama xawwee-pa-ni eerokkee-ci=ga, ciin ciin ciruwaldas”.**

this many(?) shaman where-ACC-3S divine+PRS-3P=Q, ITJ

これらの多くの (?) シヤマンはどこを占っているか、チーン、チーン、チルワルダシ」。

[\*gərə は池上 (1997)、澗瀉 (1981) で確認できないが、満洲語 gərən 「多くの」と比較できるかもしれない]

92/90-91

*Aciá yníni nucí tará naci umbońé: "Búno-rúlo-xéni,***aciga əni-ni=ŋuci taraŋaci um-bəə-mee, bəñərələ-xə-ni.**

rat mother-3S=TOP thus tell-CAUS-CVB+EMP, struggle-PST-3S

ネズミの母親はそのように言われて、苦しみがいた。

93/91-92

*unajjé, úccini, búnu rosiži pōzi, ylé-ylé, úccini,***“əñajjee” uc-ci-ni, bəñərə-si-zi poo-zi\*, ələ ələ uc-ci-ni.**

ITJ say-PST-3S, struggle-PRS-INS ?-INS, enough enough say-PST-3S

「あれまあ」と言った、苦しみがきながら (?) 「もういい、もういい」と言った。

[\*poo は池上 (1997:162) に「個体、箇所」とあるが、該当するか不明)

94/92-94

*xaj ambáni samámba gátačer zíllymi xáni pamalí\* jajawciśuá,***“xai amba-ni samam-ba gaatta-gacceeri zillə-mi ?? jaajauc-ci-su=ga.**

what devil-3S shaman-ACC go.for-CVB.P lie-CVB ?? sing+CAUS-PST-2P=Q

「どんな悪魔がシヤマンを連れて来てうそを言って (?) おまえたちは歌わせたか。

[\*xáni pamalí の分析・意味不明]

95/94-95

*sapájé, hyri, yniýsil, hyri, mindeyćeri nynnonusú, híri”.***sapajee\*, xərii, əŋəsəəl, xərii, mində-gacceeri ɣəñnəənu-su, xərii”.**

annoying, ITJ, children+VOC, ITJ, beat-CVB.P go.back+CAUS+IMP-2P, ITJ

うるさいな、ハーリー、子どもたちよ、ハーリー、棒で打って帰らせろ、ハーリー」

[\*澗瀉 (1981:182) sapai 「うるさい、倦き倦きの」]

96/95-96

*Nyyciy samáni ŋúci, cup, nynuxéni.*

**næcigə sama-ni=ŋuci cup ŋənu-xə-ni.**

bird shaman-3S=TOP quickly go.back-PST-3S

小鳥のシャマンはサッと帰った。

97/96-97

*Nynuxéni hamárakkéni aciá yníni núci ylléu ulingá otoháni.*

**ŋənu-xə-ni xamarakkeeni aciga əni-ni=ŋuci əlləu uliŋga otu-xa-ni.**

go.back-PST-3S afterwards rat mother-3S=TOP completely heal-PST-3S

彼が帰ったあとでネズミの母親はすっかりよくなった。

98/98

*Gǎ, urí jelēbini muccáni xoziháni.*

**gəə, əri ələ bii-ni muccaa-ni xoz-i-xa-ni.**

ITJ, this enough be+PRS-3S, end+ACC-3S finish-PST-3S

さあ、これで十分だ、最後まで終えた。

## 参考文献

- Ikegami, J. 1985. B. Pilsudski in Uilta and Olcha studies. In Executive Committee of the International Symposium (ed.) *Proceedings of the International Symposium on B. Pilsudski's Phonographic Records and the Ainu Culture*: 168-172, Hokkaido University.
- 池上二良 1987. 「ウイльта語・オルチャ語研究における B.ピウスツキ」加藤九祚・小谷凱宣 (編) 『ピウスツキ資料と北方諸民族文化の研究』(国立民族学博物館研究報告別冊 5): 275-282, 国立民族学博物館. [池上二良 2001 『ツングース語研究』(汲古書院)に再録: 222-231]
- 池上二良 (編) 1997. 『ウイльта語辞典』北海道大学図書刊行会.
- 池上二良 (採録・訳注) 2002. 『増訂 ウイльта口頭文芸原文集』(「環太平洋の言語」成果報告書 A2-013) 大阪学院大学情報学部.
- 潤潟久治 (編) 1981. 『ウイльта語辞典』網走市北方民俗文化保存協会.
- Majewicz, A. (ed.) 1985. *Materials for the study of the Orok (Uilta) language and folklore I: Foneticheskie i grammaticheskie zamechanija k jazyku orokov, orokskie teksty*. Working Papers 16, Adam Mickiewicz University, Institute of Linguistics.
- Majewicz, A. (ed.) 2011. *The collected works of Bronislaw Pilsudski Vol.4: Materials for the Study of Tungusic Languages and Folklore*. Trends in Linguistics: Documentation 15-4, De Gruyter Mouton.
- 津曲敏郎 2013. 「B.ピウスツキのウイльта語民話資料について」沢田和彦 (編) 『ポーランドの民族学者ブロニスワフ・ピウスツキの生涯と業績の再検討』(埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書 5): 97-112, 埼玉大学教養学部・文化科学研究科.

- Tsumagari, T. 2014 (to appear). Remarks on the Uilta folktale text collected by B. Pilsudski. 『北方人文研究』7, 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター.
- 山田祥子 2010. 「ウイльта語北方言にみられる動詞語尾-li について」 呉人恵 (編) 『環北太平洋の言語』15:85-100, 富山大学人文学部.

An Uilta Folktale Text by B. Pilsudski: “A Rat Mother and a Frog Mother”  
with Grammatical Analysis and Japanese Translation

Toshiro TSUMAGARI  
(Hokkaido University)

Bronislaw Pilsudski (1866-1918), a Polish ethnologist, collected Tungusic materials in Sakhalin and Amur region in early 20th century. In his collection, there is an Uilta folktale text, which has not been fully analysed. The present work is an attempt to reconstruct the text in phonological transcription with grammatical analysis and Japanese translation.

The story of the folktale is summarized as follows:

A rat mother and a frog mother went up the river by boat to gather berries. The frog mother could not climb the tree and got no berries. The rat mother got many, but gave none of them to the frog mother. When they came back home, the children of the rat were happy, while the children of the frog were sad. The frog mother killed an elk and got much meat. The rat mother attempted to steal the meat, but was hit bitterly by the frog mother. To heal her wound, a crow shaman, a raven shaman and a bird shaman were called one by one. The bird shaman told the truth and was sent away by the rat mother.

(つまがり・としろう tumagari@let.hokudai.ac.jp)